



インドCBR現地研修会

2010年1月16日～23日
JANNET



目的

1. コミュニティー開発と障害との関係、コミュニティによる障害問題への取り組み方を理解。
2. コミュニティーによるCBRの取り組みを理解。
3. 家族、グループ・リーダー、その他のコミュニティ・メンバーに会う。



研修日程

- ◆ 1月16日 日本出発
- ◆ 1月17日 コーディネータ(Basic Needs India)
- ◆ 研修内容の説明を受ける。
- ◆ 1月18日 Mobility India Centre訪問、都市
CBRプログラム訪問、義肢工房訪問
- ◆ 1月19日～20日 Anantapur (AP)
農村CBRプログラム訪問
- ◆ 1月21日 BNI精神障害プロジェクト訪問
- ◆ 1月22日 総括



Mobility India

- (1) 理念
障害者が平等な権利と豊かな生活を送れるインクルーシブな社会を実現。
- (2) フォーカス対象
障害のある**貧困者、女性、子供**
- (3) 活動内容
 - ◆ ハビリテーション/リハビリテーション・サービス
 - ◆ リハビリテーション分野の人材育成
 - ◆ 都市と農村のCBR
 - ◆ 補助器具の開発と推進
 - ◆ パートナーシップの樹立
 - ◆ 啓発、ネットワーキング、アドボカシー
 - ◆ カルナタカ州の地域リソース・センター



Basic Needs India

(1) 組織

- ◆ Basic Needs UK
- ◆ 22 districts/4 states(南インド)
- ◆ オフィスがあるのはバンガロールのみ。
- ◆ 各地域のNGOsとパートナーシップを結んで活動を進める。

(2) 活動内容

- ◆ 権利に基づく活動
- ◆ CBRコンサルテーション／技術的支援／州レベルの啓発活動

(3) 理念と主義

- ◆ MHを他の問題(或いは活動)から切り離すことはできない。
- ◆ 成功の秘訣…資金提供(活動資金、給料など)をしない。



都市スラム・プロジェクト(2003)

障害問題に既に取り組んでいる8-10NGOsに、Mental Health(MH)を含むように働きかける。

'Democratic Way'で→説明会を開き、興味のあるNGOsに参加を募る。

'Why do we have to work with MAD people?'→偏見を拭うのに2-3年間

引き際は、プロジェクト開始後7-10年。

バンガロール



州名	カルナタカ
州都	バンガロール
人口	5270万人
言語	カンナダ語 ウルドゥー語 テルグ語
識字率	67%
面積	19万179km ²

1月17日 研修概要説明 Chandru 氏

- ◆ 研修に鍵を握る概念を確認
(例: コミュニティー、ベーシック・ニーズ、開発)
- ◆ 障害者の権利条約への理解(宿題)
- ◆ バンガロールの現状
(例: 都市環境問題、アルコール中毒者多発)

C氏: 障害者に必ず質問する。『君は、何を家族に、コミュニティーに貢献している? 還元している?』



1月18日 Mobility India

- (1) Shankar氏(ディレクター)によるMI活動紹介
- (2) センター内見学
 - ◆ 診断所
 - ◆ 義肢製作所
 - ◆ 義足製作所
 - ◆ リハビリテーション室
 - ◆ リハビリテーション・コース講義室



Banashankari 都市CBRプログラム

ムスリム女性CBRワーカーが案内

(1) 少年(9)・・・マイルドCP+MR

- ✦ CIPについての知識
- ✦ 政府支援手続き

(2) 女兒・・・重度身体障害+MR

- ✦ Home-based Therapy
- ✦ 女性SHGで、マイクロ・ファイナンス



女性障害者による義肢工房 (R.A.D.D.W.)

1997年 子供と女性を対象とした
income generation
→8人の女性障害者に技術を

ビジネスは成功—顧客は裕福層
→自立、家庭、地位向上

安定した雇用体制
—7,000Rs/m+福利厚生(退職金、
医療投資、保険、会社の貯金)

社会的効果
「女性の企業家を見るのは嬉しい。」



1月19日~20日 Anantapur (AP) 農村CBR研修

アンドラ・プラデーシュ州での
CBR成功要因

- (1) 貧困問題に積極的に取り組んだチーフ・ミニスター
- (2) Naxalite Movement
- (3) サンガムとSHG併用



SACRED

[歴史]

- 1994 創立 (予算なし)
- 1996 2村にて、プロジェクト開始 (他のNGOsへのコンサルテーション)
↓ (10年間) ACTION FOR DISABILITY, UK (AFD)による資金的サポート。
46村に拡大
- 2006 AFD—サポート終了
- 2007 CORD LEAF, Netherland, 146村

[活動内容]

- ◆ コンサルタント…グループが社会活動に統合されるように。
- ◆ ‘Money creates problems’ → 経済的支援はしない。
- ◆ Implementerではなく、Facilitator
- ◆ CBRトレーニング、職業訓練、

プロジェクトの進め方

10日 → 3ヶ月

SACRED 村へ 家族をトレーニング

10日 → 3ヶ月

10日 → 3ヶ月

同時並行で、政府の障害者政策も進む。

- ・ マイクロ・ファイナンス
- ・ National Rural Employment Scheme…労働収入70～100Rs/D
- ・ 年金制度(40%障害—200Rs/m, 40-70%障害—300Rs/m, 70%以上障害—500Rs/m)

障害者自助グループと家庭訪問

(1) 障害者自助グループ訪問

Netaji Disabled Sangam

- ☞ 21人のメンバー自己紹介
- ☞ 活動内容紹介

(2) 家庭訪問 (2チーム)

1. 少年 (知的+身体)
2. 青年 (知的+精神) と父 (精神)
3. 障害SHGが活躍する村
4. 女性障害リーダー (身体)

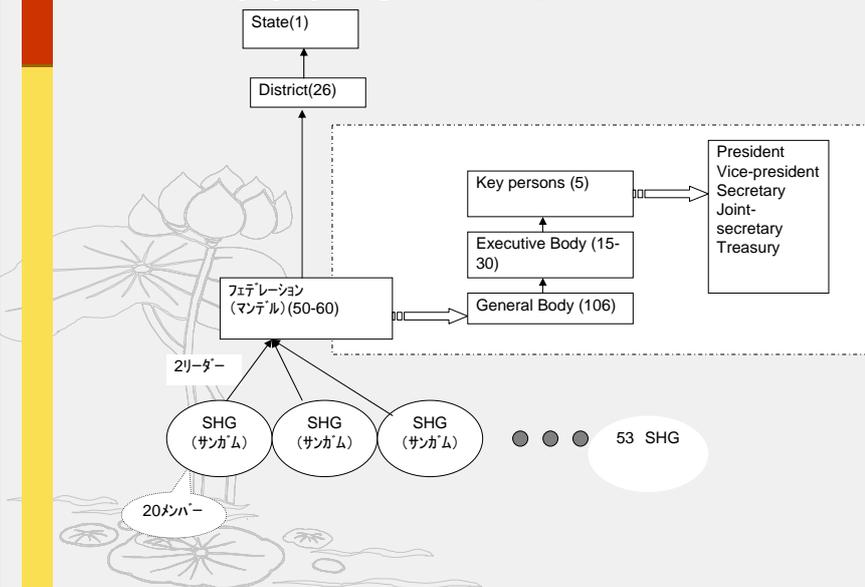


1月20日 フェデレーション集会

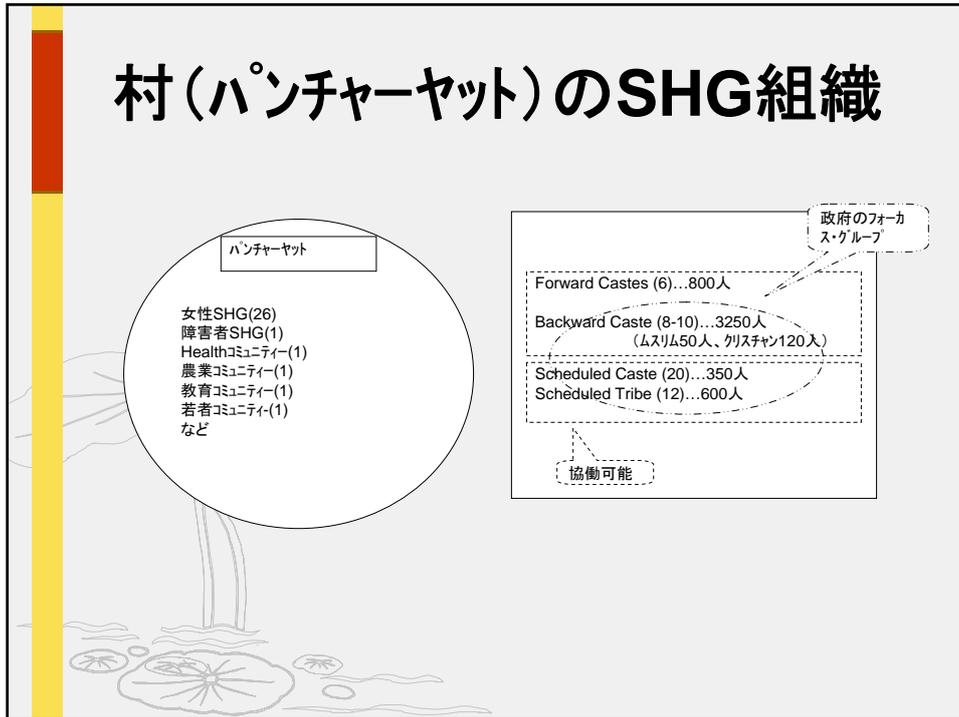
- ◆ フェデレーション・メンバー自己紹介
(13人)
- ◆ SACREDが製作したメンバーの
ドキュメンタリー (Big Lottery Fund
UK)
- ◆ 村の構造、障害者自助組織、
女性SHGとの関係、コミュニティー
との関わりなどの講義



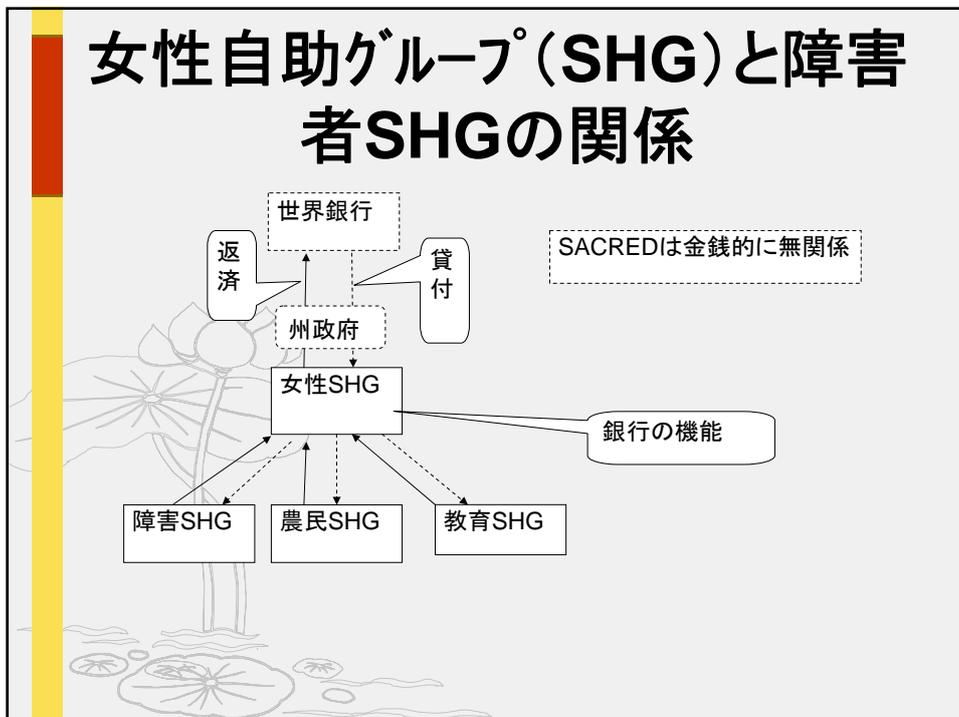
障害者自助グループ



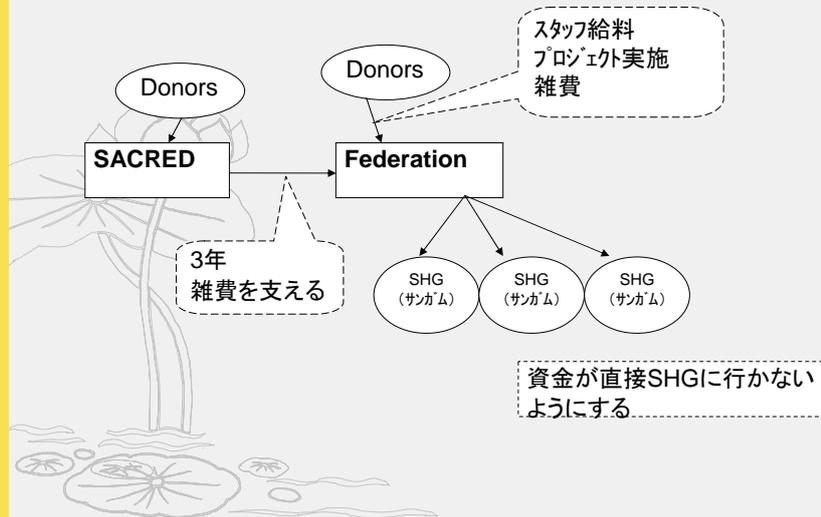
村(パンチャーヤット)のSHG組織



女性自助グループ(SHG)と障害者SHGの関係



SACREDとSHGの関係



1月21日

BNI都市スラム精神障害プロジェクト訪問

(1)家庭訪問(2グループ別)

- 1.20代前半の女性
- 2.MHとTBの2人妹を支える姉
- 3.知的障害家族3人の拡大家族



精神障害フェデレーション集会

[構成]

APD, APSA, Paraspara (MI家族の介護グループ) + 女性SHG

[目的]

1. 州に精神科を増やす
2. 治療システムを村レベルにもあるように
3. 救急車の普及
4. 病院へのアクセス、障害識別
5. 州のMHauthorityにメンバーシップ (Fのニーズを政府に取り込む)

[達成]

- 精神科 (医) の増加
- 精神病患者への救急車、ヘルプライン
- コミュニティーでの啓発向上



APD 園芸ユニット

- 成長する園芸市場・雇用市場
- 園芸養成講座は入学し易い
- 高い就職率と定職率
- フォローアップ (雇用者の賃金支払い)
- 「癒し」…書面化計画



1月22日 研修振り返って

1. 研修者の感想

(1)「entitlement」と「権利」の違いを学んだ。

- entitlement: 条件つき(例:障害40%は年金とバスカード)
- 権利: 条件なし、ユニバーサル・コース(衣食住・教育・保健)に関わる人権

→ CRPDの実施をする上で必要な学びを得た。

(2)ラオスのような小規模なところでCBRは実施できるのだろうか？

→できる。何故ならば、規模に関係なく、障害者はコミュニティーの一員なのだから。

→コミュニティーごとにCBRは独自に発展するべき。

(3)都市と農村とに、大きな違いを感じた。都市よりも農村の方が、コミュニティー活動を行い易いのではないかと思った。

→都市特有の問題、SHGとサンガム

UNCRPDの意義と実施

CRPDは、障害者が非障害者と同じ権利を主張・獲得するために有効



人々の生活実情を見ずに、実施は不可能

→国際と現場とのギャップ

→CRPDの解釈が重要

→法は、人々に実行されて始めて意味を持つ。

CBR

- (1) CBRに単一モデルは無い。
コミュニティに応じて、活動内容は異なる。
常に変化する社会状況に対応。
- (2) 応用力、対応力の強化—コミュニティ・レベル
- (3) ネットワークの強化—ディストリクト・レベル
→ 全分野による取り組みが必要

基本は…

process-oriented
people-centred
poor-focused

都市スラムとCBR

- ① 利益をまず初めに提示・提供
→ 移民、信頼関係が薄い。
- ② 金銭的要求が高い→ SHG
- ③ 政治的圧力(闇世界の影響)を理解。
- ④ リーダーシップ育成
→ 故郷のない家庭からリーダー発見
- ⑤ リーダーをコミュニティに認知させる。

研修参加者からの報告...



発表者: 林 早苗 hayashi.stf@dinf.ne.jp